

# スタジオ夜話

第61話 スタジオ夜話

## サウンドドラマの制作

### ☆ はじめに

今回はしばらくの番外編ではないスタジオ夜話になります。季節も5月となり30度近い夏日も……。読者皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。筆者は多少汗ばむ夏を楽しんでいます。皆様も梅雨前の一時を楽しんでください。さて今回のスタジオ夜話、番外編ではありません。

日頃の筆者の思いなどを含め音にかかわるお話しをしたいと思います。お付き合いをお願いいたします。

### ☆最近耳にした新製品シニア世代が開発したスピーカー

読者の皆様はミライスピーカーという製品をご存じでしょうか。台東区にあるサウンドファンという小さな会社が開発したスピーカーのことです。スピーカー自体は、湾曲させた振動版を使うことにより放出した音エネルギーが遠くまで減衰しにくく届くという現象を利用したスピーカーで同社はこれを難聴者の「聞こえ」のサポートと位置づけ人の集まる場所などでの有用な「音のバリアフリー」システムとして展開しているものです。

筆者はこの製品のレポートするつもりではありません。今日様々な製品が開発されるなか、この製品の開発に関わることがちょっとスタジオ夜話的におもしろいので取り上げました。

今日読者皆様の仕事場で使用されているモニタースピーカーの特性は非常に優れて

います。このミライスピーカーは特性的には再生周波数帯域 200～15KHz と一応人間の可聴帯域をカバーしているものの構造的に曲面振動板は低域を出しにくく通常のユニットによるウーファーを加え 2Way 構成で出来上がっています。

音質的にはまだまだという所でしょう。しかしなぜこのスピーカーを製品化したのでしょうか。ひとつは音の伝達が、距離があっても減衰しにくく同じような音量なら従来型のスピーカーにくらべてより明瞭に遠くまで聞こえるという点です。

実はもうひとつがスタジオ夜話的なので今回お話しすることとしました。このスピーカーを開発した会社、社長をはじめ設計などにたずさわる人間が現役をリタイアした元音響メーカーのエンジニアたちなのです。会社のホームページをみるとスタジオ夜話の読者諸先輩方の知り合いとも思える方々のお名前が並んでいます。現役時代には高性能な音響機器を開発していた方々が今度は自分たちが作りたいと思ったもの、高性能重視ではなく、社会貢献ニーズ優先といった発想から製品化を進めてきたと筆者は思います。

年齢を重ねること、聞こえない音、そうしたことがわかるシニアエンジニアの創意工夫がこの製品を世の中に送り出したのです。

### ☆ CM の音がおもしろい音創りという要素がいっぱい!

最近筆者は TV をそれなりのイヤースピーカー（イヤフォン）で時々観ます（聴きます）。そこで気が付いたのですが番組の

音声の質は以前とさほど変わらないのですが一部の CM に使われている音楽や効果音の創りに素晴らしいものがあることに気が付かされます。

残念ながら我が家の TV はそれほど性能のよい音声システムとは連動していませんし、TV 自体の音響システムも通常レベルのもので。だからイヤフォンで聴くまで気が付きませんでした。映画館（今はシネコン?）で本編の始まる前某音響システム会社 D 社の宣伝が始まると劇場全体が仕掛けられた音楽と音響でサラウンドいっばいに拡がる凄さに驚かされますが、サラウンドとはいかないまでも手の込んだ TVCM の音はなかなかのもので。CM 制作にかける予算などの関係から TV 番組自体の音声にかける手間が違ってくるのでしょうかその差は歴然としています。

もちろんのことですが TV 番組の音が悪いと言っているものではありません。しかしながらお笑い全盛、バラエティー番組が多く放送されるなか、放送局は高価な音響機器を設備していったいどんな音声を私たちに提供しようとしているのでしょうか？ 時として疑問を抱きます。筆者には CM の音声に関わっているエンジニアに知り合いがないので（たぶん?）制作現場を観る機会がありませんが、丁寧にまた創意工夫を凝らして制作していることが窺えます。

読者皆様のなかにはそうしたエンジニアの方も多いかとも思います。機会がありましたらアドバイスなどお願いいたします。また読者皆様もご自宅でも多少大きめの音でイヤフォン試聴してみると新たな発見もあるかもしれません。お薦めいたします。



夜のアンティーク・ショップ、店は閉まっているが、照明はついている。何やらヒソヒソと話し声が聞こえる。誰も居ないはずの店内。声の主は、おもちゃの木馬だった。ポディーだけのトルソーに話しかけている。なんて、お話が生まれそうなワンショット。



変わりゆく、東京渋谷の夜景。高速道路の上を渡る、歩道橋。二人の話し声が聞こえる。つい2年前まで、駅前にはビルがあったのに……。下には車の騒音が聞こえてきそうなシーンです。(moka)

### ☆街には音が溢れている！客観的にモニタリングしてみよう

音を意識しながら街を歩いてみます。筆者もすでに還暦を過ぎています。健康のため歩くことにしています。最近では小型のレコーダーを持ちイヤフォンを介して周囲の音をモニターしながら歩くこともあります。レコーダーに付属するマイクロフォンは周囲の音を意識して選択してはくれないので、すこしばかり注意しないと危険です。歩きながらモニターするより立ち止まってモニターすることをお勧めします。さて、こうしてモニターしてみると私たちがよく音の聴かれ方について説明する「カクテルパーティー効果」周囲の多数の環境音の中で自分に必要な音だけを選択して聞き取ったりする脳の働き。がリアルに体験できます。

イヤフォンをかけないと自然とあいまいではあるものの、なにが目的を持って周囲の音を聴いているのに対してイヤフォンを着けた瞬間、そしてしばらくの間、周囲の音をすべて選択することなく聞くこと

になり、やがてイヤフォンのモニターしている音のなかで自身が音を選択して行く、過程が実感できるのです。

しかし現実の空間での聴くという行為がその音の方向性などを含めた情報を得るためのものであり、イヤフォンモニタリングではこうした情報は不明瞭なものとなっています。

また目的地に向かい歩いている時、周囲の様々な音はかなり大きな音でも自身にとって必要なものでないと判断されると意識外の音としてマスキングされるようです。(音のマスキングについては別の機会にお話しをしますがここでは簡単に音を意識して聞こえなくするぐらいの捉え方をお願いいたします。)

つまりイヤフォンでモニタリングすると街には私たちに必要で無い音が溢れかえっていることが実感できるということです。これは効果音など創る時のヒントにもなります。シチュエーション設定に必要な効果音は、ある特定の設定上の意味を持つ音によって創られます。しかしそれ以外の背景音は雰囲気的な要素が強い音で構

成されます。

たとえば大きな都市の街中、閑静な住宅地とかです。この2つの違いはなんでしょうか。様々な所でモニタリングしてみてください。筆者の感じていることなどがご理解いただけたらと思います。

### ☆次回は

今回のスタジオ夜話、ちょっとした製品の開発の背景、TVCMの音に創意工夫が見え隠れ、散歩がてらに周囲の音を意識してモニタリング、と意味不明なものになってしまいました。しかし今回のお話は前回お話した、☆演出という要素・素材を創る、から次回以降の番外編でのお話に繋がるものとしてお話ししました。

今回は番外編サウンドドラマ制作・ミキシングその具体的なアプローチのお話です。

— 森田 雅行 —